

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	商学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生による外国語研修・留学制度利用を促進する。	→留学制度を利用しようとする学生にとってネックであった4単位の諸科目の2単位化。外国語研修・留学制度利用学生数	D	C	B	B	B
2. 受け入れ留学生(受け入れ国、人数)を見直し、学部の活性化につなげる。	→留学生の受け入れ国数、受け入れ人数(新中期計画による具体的な受け入れ数が確定した上で、それを目標として設定する)。	C	C	B	B	B
3. 外国人留学生・国連難民高等弁務官推薦制度による入学生の修学状況等のケアを図る。	→外国人留学生および国連難民高等弁務官推薦入学制度による入学学生と学部執行部との会合の実施。 外国人留学生等の修学状況等についての個別面談の実施。	A	A	A	A	A
4. 海外客員教員招聘制度を見直し、教員との国際共同研究の推進、および、教育の拡充につなげる。	→海外客員教員招聘数。海外客員教員との共同研究・共同論文数の把握。海外客員教員の実施授業数。 海外客員教員招聘制度の改善に関する商学部からの要望の提言。	C	C	C	C	C
5. 教員による海外留学、海外での共同研究の拡大。	→教員の海外留学、共同研究支援制度の改善に関する商学部からの要望の提言。	C	C	C	C	C
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度から専門科目の2単位化、および言語教育科目のセメスター開講を実施した。また、マウント・アリソン大学(カナダ)と学部独自の提携(2015年度以降入学生対象のダブルディグリー制度)を結んだ。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2単位化・セメスター化の結果、留学のネックとなっていた要因が少なくなり、帰国後の単位認定も柔軟に対応することが可能になった。2013年度は海外への派遣学生数の在籍者数に対する比率が2009年度では0.8%だったのに対し、2013年度では2.1%であり、着実に増加していると言える。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か マウント・アリソン大学とのダブルディグリー制度をはじめ、1学期以上に渡る長期の留学制度を利用するよう、学生に促していく。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 外国人留学生入試制度および交換留学制度を通じ、留学生を受け入れている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 従来まで中国からの留学生が多数を占めていたが、近年、欧米人留学生も加わる傾向にあり、学部の活性化につながると期待される。正規留学生の比率は2010年度までの1.0%から2011年度以降は1.3%程度と安定して増加している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 受け入れる学生の質に留意しつつ、一定数の留学生を受け入れる。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国連難民高等弁務官推薦入学制度による入学生に対し、学部執行部との面談を実施している。外国人留学生等については副学部長(学生担当)が状況に応じ個別面談を通して把握している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 修学状況に満足しているかどうかを把握している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も個別の面談を続ける。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
目標4	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 海外客員教員招聘制度を利用した教員の招聘および海外共同研究の実施</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学院が定めた海外客員教員招聘数が増えないので、本学部としても受け皿を欠く結果となっている。また本学部で積極的に海外客員教員の招聘に動く向きが少ないのも事実である。海外客員教員を招聘しなくても、海外共同研究を実施している教員もいる。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 海外客員教員招聘制度の改善に関して商学部から要望を提言する。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>

目標5	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教員による留学は主に学院留学の制度を用いている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 独自に留学の機会を得る教員は皆無である。学院留学制度が現状のままである限り、教員の海外留学は進みにくい。また、商学部独自で海外の大学と研究交流を進める案は提示されていない。個人的に留学先や学会で知り合った関係を生かして、研究交流を図り共同研究に結びつけている教員は存在する。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教員の海外留学、共同研究支援制度の改善に関して商学部から要望を提言する。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【商学部】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—	1	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—	1	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	29	29	36	37	39	37	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人	—	—	—	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	1.0	1.0	1.3	1.3	1.4	1.3	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	15	24	23	18	8	—	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	23	35	31	40	58	—	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.5	0.9	0.8	0.7	0.3	—	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.8	1.2	1.1	1.4	2.1	—	
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	1	0	0	0	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	1	0	1	0	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	2	1	1	2	0	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	39	60	54	54	56	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	0	0	1	0	0	—	・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%	4.0	0.0	0.0	2.1	2.0	2.0	・5/1現在	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

※指標7「国連ボランティア(UNV)の参加者数」は2013年度から国際社会貢献活動参加者を含む。また国連ボランティアは2013年度より国連ユースボランティアとなった。